

地域に根差した心不全治療への取り組み

安心して自宅で暮らすための鍵は心臓リハビリ

光生病院



副院長・循環器内科

吉田 賢司(よしだ まさし)先生

名古屋市立大学卒。大阪市立総合医療センター、広島市立広島市民病院、岡山大学病院勤務を経て令和7年4月、光生病院副院長に就任。趣味は健康づくり。ランニングや水泳を実践

「心不全は一度発症し入院すると再入院を繰り返す、生活の質が低下してしまいます。こうした状況の改善に向け、光生病院では、薬物治療に加え、心臓リハビリテーションという生活に根差した治療に力を入れようとしています。副院長で循環器内科の吉田賢司先生に聞きました。

「再発予防」と「生活の自立」目指して
多職種チームが患者さんをサポート

死亡原因としてよく耳感、動悸(どうき)、息切れにする「心不全。病気の、手足の冷え、むくみ名前ではなく、心臓に何などの症状が現れます。らかの異常があつて心臓原因には心筋梗塞や心筋臓リハビリは、その鍵にのポンプ機能が低下し、症などの心臓の異常に加なると感じています」と十分な量の血液を全身にえ、高血圧や糖尿病など送ら出せなくなった状態も関係しています。吉田副院長。心臓リハビリでは、医師・看護師・理学療法士・

薬剤師・管理栄養士・臨床心理士など、多職種がチームとなって患者さんをサポート。運動療法を中心に、食事・服薬・心理面などの生活習慣改善を行い、「再発予防」と「生活の自立」を目指します。薬を服用し、心不全が「地域ぐるみで支える心不全ケア」構築へ「動いていいのかわからない」「今は地域のかかりつけ医とも連携し、地域ぐるみで支える心不全もよく聞きますが、医学的に安全な範囲で身体を動かすことで、体力や気持ちの安定につながります」とのこと。8月ごろからリハビリ室に心臓リハビリの専用と力強く語ります。



光生病院の外観

問い合わせ
社会医療法人 光生病院
岡山市北区厚生町3-8-35
☎ 086-222-6806
<http://www.kousei-hp.or.jp/>
光生病院 検索

山陽新聞・OHKの生活情報紙

さりお SALIO
2025/06/27 掲載